

概要

沿革

宝永3年(1706年)松前藩が増毛場所に家臣を置いて鮭漁業を経営させ、寛政年代(1789年頃)に増毛場所しものくにぶぜんを下国豊前に、留萌場所・苫前場所・天塩場所を松前貢まつまえみつぐに命じて開拓したのが始まりと伝えられています。

その後、紀州の商人栖原角兵衛すゐはらかくべゑ、松前の商人村山伝兵衛むらやまだへゑ、伊達林右衛門などが松前藩の請負人としてこの地方に入り、漁業を営しました。

明治2年(1869年)7月に北海道開拓使が置かれ、行政区画の変遷を経て、明治30年(1897年)11月に増毛支庁が設置されました。大正3年(1914年)9月には支庁を留萌町に移し、留萌支庁と改称されました。

昭和23年(1948年)10月天塩郡豊富村を宗谷支庁に分離しました。平成22年(2010年)4月に幌延町が宗谷管内に移管され、留萌支庁の名称は留萌振興局となりました。



旧佐賀家番屋（留萌市）

自然条件

地勢

留萌管内は、北海道の北西部に位置しており、西部は日本海に面し、南北約130km、東西約60kmの南北に長い地域です。

北は天塩川をはさんで宗谷地域に、南は増毛山地をはさんで石狩地域に、東は天塩山地をはさんで上川地域、空知地域に接しています。

管内の総面積は3,445.90km²で、北海道の総面積(83,423.81km²)の4.1%を占めており、この面積は、鳥取県の総面積(3,507.13km²)に匹敵する広さです。

中南部では、海岸近くまで丘陵が迫る地形が多く、河川沿いに平坦地が分布する地形で、北部に北海道遺産「天塩川」などがあり、南北178kmに及ぶ海岸線は「日本海オロロンライン」として親しまれ、暑寒別天売焼尻国定公園などの景勝地を有する自然に恵まれた地域です。

気候

気候は、日本海岸式の気候であり、対馬海流の影響で緯度の割には比較的温暖です。

北部と南部の平均気温はほぼ同じです。

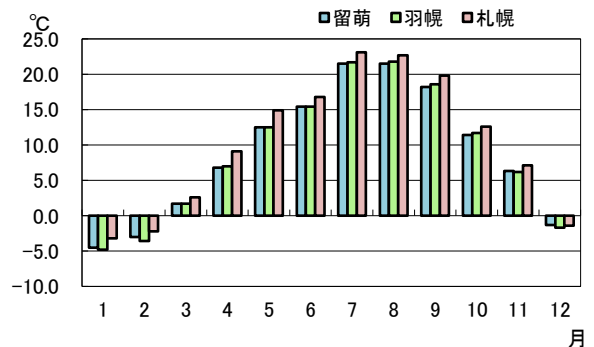
	平均気温	年最深積雪
留 萌	8.9	111cm
羽 幌	8.9	89cm
札 幌	10.2	79cm

(2022年)

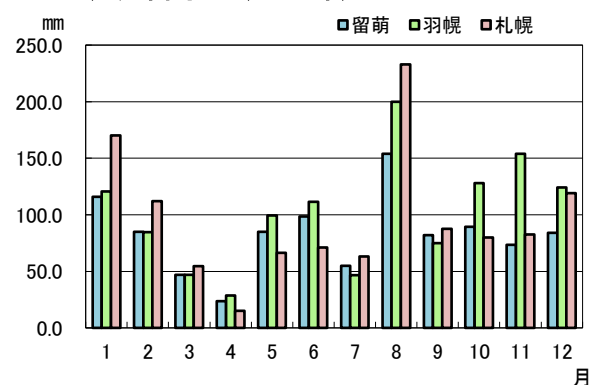
4月上旬の雪解けとともに急速に暖かくなり、8月にかけては風も弱く海も穏やかな日が続きます。秋は短く、10月下旬には初雪が降ります。冬は北西の季節風が強く、海上海岸で風速20m/s以上となる日や5mを超える波浪が発生する日も珍しくありません。

1年の約半分を占める冬期間は日本海側特有の吹き上げる風が地吹雪を起し、視界不良や吹溜りによる交通障害の原因になっています。

月別平均気温(2022年)



月別降水量(2022年)



月別平均風速(2022年)

